

日本短角種産肉能力検定（間接法）成績

（畜試 肉牛部）

1、背景とねらい

産肉能力直接検定成績が優れた種雄牛について間接検定を実施し、その屠体成績が得られたので、種雄牛交配計画のための参考に供する。

2、技術の内容

1) 昭和62年度日本短角種間接検定成績

検定牛	波 国 (N=10)	笹 光 (N=10)	豊 文 (N=10)	若 花 (N=10)
生 年 月 日	59. 2.16	59. 2.26	59. 3.15	59. 3.25
登 録 番 号	本 第 774	本 第 771	本 第 773	本 第 772
産 地	玉 山 村	川 井 村	岩 泉 町	岩 泉 町
直接検定 DG	1.30	1.20	1.31	1.22
体 重				
開始時	247±27	260±18	263±25	258±19
終了時	574±31	590±41	583±45	565±38
1日当り増体量	1.04±0.12	1.07±0.11	1.04±0.11	1.00±0.11
1KG増体TDN	6.30	6.39	6.54	6.54
屠殺前体重 a	542±26	564±39	554±42	534±34
温屠体重 b	337±20	344±26	352±26	335±24
枝肉歩留 a/b	62.1±1.1	61.0±1.3	63.5±1.4	62.7±0.8
ロース芯断面積	37.9±2.6	41.0±3.0	40.4±4.6	42.2±2.8
背部皮下脂肪厚	2.4±0.4	1.9±0.3	2.5±0.4	2.4±0.3
脂肪交雑 (BMS)	0.7±0.2	0.7±0.3	0.6±0.3	1.0±0.1
枝 肉 格 付	A3-7 A2-2 B3-1	A3-5 A2-4 B2-1	A3-3 A2-5 B3-2	A3-7 A2-2 B3-1

- ・波国は1Kg増体に要するTDN(6.30Kg)及び枝肉格付(A-3格付率70%)に優れるが、ロース芯断面積(37.9cm<sup>2</sup>)及び背部皮下脂肪厚(2.4cm)については劣る。特にロース芯断面積は改良目標の40cm<sup>2</sup>を下回っている。
- ・笹光は1日当り増体量(1.07Kg)及び背部皮下脂肪厚(1.9cm)に優れるが、枝肉歩留(61.0%)は劣る。
- ・豊文の枝肉歩留は検定済牛中最も高い63.5%であるが、1Kg増体に要するTDN(6.54Kg)、背部皮下脂肪厚(2.5cm)及び脂肪交雑(0.6)は低く、A3格付率も30%と劣る。肉色が濃いもの、肉のしまりに欠けるものが散見された。
- ・苔花はロース芯断面積(42.2cm<sup>2</sup>)及び脂肪交雑(1.0)に優れ、枝肉格付もA-3格付率70%と優れている。1Kg増体に要するTDN(6.54Kg)及び背部皮下脂肪厚(2.4cm)は劣る。

### 3、 指導上の留意事項

- 1) 成績が総合的に優れた苔花は64年より人工授精用として凍結精液を供給する予定である。苔花は背腰の幅があり均称に優れた種雄牛であり、その産子は発育中軀質に優れるが、後軀がやや劣るものがみられる。
- 2) 交配種雄牛を選定する際は、近親交配を避け、産子の近交係数が12%を越えないようにする必要がある。

#### 3) 間接検定方法

期 間 308日間

飼料給与 濃厚飼料 間接検定飼料(TDN73.0%、DCP10.0%)  
体重比1.8%制限

粗飼料・・・ デントコーンサイレージ(前期のみ)及び乾草を飽食

### 4、 関連試験課題名

日本短角種産肉能力検定(間接法)